

## 5. 味覚の各年令層における男女の比較

共立女子大 小川 文代

1. 味覚の男女の相違については既に外国においても論議されているところである。わが国では三村信乏氏が日本人成人の男女(16~22才)の調査から味覚の種類によって多少の相違はあるが、何れの味覚も女子の方が敏感であると報告している。私は幼児から老人までの各年令層6段階の集団について数年来調査をつづけているので、今回は各年令層における男女の味覚を比較検討したいと思った。

2. 被検者の年令層は幼児(4~5才)、小学生(10~11才)、中学生(13~14才)、高校生(16~17才)、大学生(19~22才)、老人(60~70才)で、各集団60人づつを調査した。呈味物質として「しおから味」は食塩、「あま味」は蔗糖、「すっぱ味」はクエン酸、「にが味」は塩酸キニーネをえらんだ。平均閾値を中心に6段階の濃度の溶液によって判断閾値を求めた。方法は全口腔法により遂次申告法に従った。時刻は午前10時~11時と午後3時~5時の空腹時に行った。

3. 以上の結果、「しおから味」と「あま味」は何れの集団においても女子の方が少しく敏感であり、「すっぱ味」は幼児ではあまり差がないが中学生~老人までかなり女子が鋭い。「にが味」も幼児から大学生まであまり男女の差は認められないが老人の男子はにぶくなっている。